

Activity

オオサンショウウオに会いに行こう！

動植物園には「レクリエーション」「環境教育」「種の保存」「調査・研究」という4つの役割がある。特に種の保全については、絶滅が心配される動植物の計画的繁殖や、野生の状態への回復といった取組が重要だ。「川ガキ再生プロジェクト」(10ページ)の舞台、北広島町のお可愛川でも生息が確認されたオオサンショウウオは、日本固有種で絶滅危惧種に指定されているが、その保全に熱心なのが広島市安佐動物公園だ。その活動は、海外の動物園やサンショウウオ研究者からも注目され、視察が頻繁だという(原則非公開施設)。生物多様性保全のノウハウを世界に発信し続けている動植物園からの学びは、生物多様性の主流化にはずみをつけるだろう。

広島市安佐動物公園

住所：広島市安佐北区安佐町大字動物園
 開園時間：9:00～16:30(入園は16:00まで)
 休園日：木曜(祝日開園)、12月29日～翌年1月1日
 ※繁忙期など臨時開園あり
<http://www.asazoo.jp/>



オオサンショウウオ保護増殖施設を見学する「サンちゃんツアー」も定期的を実施。

Movie

あなたの服を作っているのは誰？

2013年、バングラディッシュ首都ダッカで起きた商業ビル崩壊の事故。原因は、ビル内に入居していた縫製工場の数千台のミシンの振動だった。事故のニュースは、グローバリズムによる産業発展の裏側に潜む劣悪な労働環境の存在を世界中に知らしめた。映画「ザ・トゥルー・コスト」では、この事故を契機に、ファッションに関わるさまざまな立場の人にインタビューを敢行し、華やかな業界の側面を鮮烈に伝えている。私たちの衣類が、どんな原料で、誰が、どんな労働環境で作っているか、消費者は知る「義務」があるだろう。同映画は「市民上映会」というスタイルも推奨されている。集まって鑑賞し感想を分かち合ったい。

「ザ・トゥルー・コスト ファストファッション 真の代償」

2015年/アメリカ/93分
 監督：アンドリュー・モーガン
 出演：サフィア・ミニ、ヴァンダナ・シヴァ、ステラ・マッカートニー、ティム・キャッサー、リック・リッジウェイ ほか
 配給：ユナイテッドピープル
<http://unitedpeople.jp/truecost/>



©TRUECOSTMOVIE

Goods

自宅で楽しむ、増やす、小さな里山。

日本の里地里山のような、持続可能な状態で農林漁業が行われる地域の維持や回復は自然の恵みを持続的に活用するうえで重要な取組だ。今ある里山の維持はもちろん、それを街の暮らしに取り入れ、身近に感じられるプロダクトが株式会社ゴバイミドリ(5×緑)の「里山ユニット」だ。都会には土が少ないため、同社は金網でつくったカゴに保水性の高い軽量土壌を詰め、植生基盤をつくるシステムを開発。里山の植生を可愛らしく再現した。直方体のカゴの底面以外、5面に植栽しているの、5倍の面積で緑が広がるのが社名にもつながっている。カゴ状なので、マンションベランダ等に連結固定すれば、都会にいながらにして群生を体感できる。



5×緑(ゴバイミドリ)の「里山ユニット」

<http://www.5baimidori.com/>

Book

今も続く、バナナをめぐる問題とは。

年間を通じて食卓にあがる果物、バナナ。日本は国内で流通している95%をフィリピンから輸入している。同国では1960年代にミンダナオ島で開発された日本向けバナナのプランテーションを出発点として輸出量が伸びたが、このバナナ産業拡大と開発の中で農民の借金や健康被害が広がった背景もある。本書は、身近な果物の生産地が抱える知られざる状況を紹介することで、その作り手と消費者である日本を結ぼうと1982年に発行され、今も版を重ねている。現在も農民の間で深刻な健康被害については、フィリピンのNGO、IDISが制作した動画「毒の雨」も合わせて参照してもらいたい。日本語字幕の動画もYouTubeで視聴可能。



「バナナと日本人 —フィリピン農園と食卓のあいだ—」

鶴見良行著
 岩波新書(1982年)780円+税